

【例題 1】「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」における災害時要援護者（要援護者）の避難支援等に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 65歳以上の者や要支援・要介護者は、全て避難支援が必要な者で要援護者に該当するため、その居所や家族構成にかかわらず、他の要援護者よりも優先的に情報収集を行う。
2. 要援護者の情報は、個人情報に該当するため、いかなる場合でも要援護者本人から同意がなければ、福祉関係部局が保有する情報を防災関係部局等の関係機関と共有することはできない。
3. 一人ひとりの要援護者ごとに避難支援者を定めると、避難支援者が被災した場合に避難行動支援ができなくなるので、一人ひとりの要援護者に対して避難支援者を定めないことが望ましい。
4. 支援物資等が限られた避難所では、要援護者全員に対する機会の平等性だけを重視するのではなく、高齢者や障害者といった枠組みにとらわれず、「一番困っている人」から臨機応変に対応する。
5. 福祉避難施設となり得るのは、旅館やホテルなどの民間の宿泊施設に限られるので、日頃からこれら宿泊施設に、福祉避難施設の必要性について理解を求め、バリアフリー化の促進について依頼をする。

〔正答 4〕

〔例題2〕 乳児をもつ母親から、「今度、生ポリオワクチンが不活化ポリオワクチンの注射に変わったが、生ワクチンを1回飲んだだけで、2回目はまだ飲んでいない。どうしたらよいか」との質問を受けた。これに対する保健師の説明として次のうち適切なのはどれか。

1. 1回生ワクチンを接種しているので、不活化ワクチンを接種する必要はないと話す。
2. 1回生ワクチンを接種しているので、その接種から27日以上あけて不活化ワクチンを1回接種すればよいと話す。
3. 1回生ワクチンを接種しているので、その接種から27日以上あけて不活化ワクチンを接種し、その後2回接種することになると話す。
4. 1回生ワクチンを接種しているが、生ワクチンと不活化ワクチンは併用できないので、不活化ワクチンの初回接種を3回し、更に追加接種を1回することになると話す。
5. 1回生ワクチンを接種しているが、もう1回生ワクチンを接種する必要があるので、かかりつけの医師に相談してみるようにと話す。

〔正答3〕

【例題3】 図は、120人を対象としたある疾患についてのスクリーニング検査の結果と確定診断の結果を示したものである。これに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。なお、割り切れない場合には、小数第1位を四捨五入して値を求めるものとする。

(単位：人)

		確定診断		計
		疾患あり	疾患なし	
スクリーニング検査	陽性	20	2	22
	陰性	4	94	98
計		24	96	120

1. 感度は98%である。
2. 特異度は83%である。
3. 陽性反応適中度は2%である。
4. 偽陰性率は17%である。
5. 偽陽性率は91%である。

〔正答4〕

